

## 平成25年度 図書館協議会 臨時会 議事録

平成26年2月25日（火）  
午後1時30分  
中央図書館2階 講堂

副館長      それでは、定刻になりましたのではじめさせていただきます。会議の前に出席に関しての説明をさせていただきます。本日7名の方が出席いただけるということで開催を決定いたしました。1名の方が30分程遅れて出席という連絡を受けております。もう1名の方が連絡はございませんが、出席の回答はいただいております。ただ、開催時間といたしましては、5名が出席ということで始めさせていただきます。本日の会議は10名の委員のうち5名が出席ということで、規則に定める定数を満たしておりますので、この会議が成立しておりますことを報告させていただきます。会議に先立ち、館長よりご挨拶をさせていただきます。

館長        皆さんお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。前回に引き続きまして、苫小牧市図書館基本計画（素案）について皆さんにご協議いただきたいなと思ってございます。もう1つ、第三次苫小牧市子どもの読書活動推進計画の最終案がまとまりまして、パブリックコメントも実施しておりましたけれども、その結果もあわせまして報告をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

副館長      それでは、早速会議をはじめさせていただきます。会長の進行でお願いいたします。

議長        それでは、よろしく願いいたします。まだ、おそろいになってないんですが、終わりの方も別な会議を控えている方もいらっしゃいますので、3時半を目処にと聞いておりますので、進行の方、ご協力いただけたらと思います。それでは、報告事項ということで第三次苫小牧市子どもの読書活動推進計画（案）について、よろしく願いします。

副館長      第三次苫小牧市子どもの読書活動推進計画（案）につきまして、平成26年1月17日（金）から2月15日（土）まで実施しましたパブリックコメントにおきましては、市民からのご意見はなかったことから、第三次苫小牧市子どもの読書活動推進計画の最終案をまとめさせていただきました。図書館協議会でいただいた意見と子ども読書活動推進連絡会議においていただきましたご意見等を含めまして、案の文書と大きく変わることは編集においてございませんでし

たので、最終案としてこのままご報告をさせていただきたいと思います。以上です。

議 長 変更点はなしということですね。この後の流れはどうなっていくんでしたか。

副館長 この後は、文教経済委員会に報告をさせていただきます。開催日は3月12日（水）になります。

議 長 そういう流れになるということです。それでは、議事の方に入らせていただきます。苫小牧市図書館基本計画（素案）について、資料が素案と皆さまからの意見と書かれてまとめた部分を合わせて説明していただけますか。よろしくをお願いします。

館 長 それでは、私の方から前回の2月4日にご説明させていただきまして、皆さまからいくつかご意見をいただきました。その内容につきまして、お手元に配布させていただいているとおりとまとめさせていただきました。それに伴って苫小牧市図書館基本計画（素案）の中身を一部変更を加えてございます。表紙からそうなんですけれども、少し分かりやすいように内容の方も整えてございますので、今回お配りした素案の方で説明させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

<以下資料により説明>

館 長 私の方から説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

議 長 それでは、今説明がありましたが、新しく出た苫小牧市図書館基本計画（素案）と、3ページものの資料と前回の苫小牧市図書館基本計画（素案）を見ながら、それぞれの方の質問なり意見が解決されているのか、その辺ご意見があればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。こちらの皆さまからの意見の方で確認させていただいてよろしいですか。3枚ものの1番から質問と回答が出ていますがいかがでしょうか……。それでは私の方からよろしいですか。1年毎の細かい中期計画が出るんですね。それを元に評価をしていただくということになるということですが、その中期計画の中で細かな部分が出てきた時に、実際にそれをどう評価するかも、その中に入ってくるということなんですようか。

館 長 実際の実施計画ですけれども、年度毎にこういった事業等を行っていきますという形のものができるようになります。それに対しての作った側の評価が入ります。その評価を元に、また図書館協議会の皆さまから更に評価していただくという流れになっていくと思います。ですので、実際の中期計画、実施計画ができな

いと、具体的な動きは見えないと思いますけれども、細かな内容を年度毎に作成してまいりますので、そちらで実際にこういったことが行われているけどどうなんだとか、実際にやれたのかといったところを評価していただきたいと思うのと同時に、そういったものについてもう少しこういった工夫が必要なんじゃないかといった部分も合わせて、皆さまからご意見をいただければというふうに思っております。

議長 はい。そういう説明でしたが、よろしいですか。

委員 全体的に前回より良くなっているんですが、今の件ですと、苫小牧市図書館基本計画（素案）は教育委員会で作りますよね。その中期計画はどこが策定していつ頃どういう形で発表され、それを図書館協議会がどういう形で評価していくかということについて、具体的にお考えがあればお教えいただきたいと思っております。

館長 苫小牧市図書館基本計画を策定してすぐに中期計画を指定管理事業者の方で策定いたします。策定次第図書館協議会の皆さまに、中期計画を策定しましたというご報告をさせていただきます。これは1年間の単年度ごとの計画になってございますので、その次次年度に計画に対する評価といったことを図書館協議会を開催していただいて、皆さまからご意見をいただくという形になりますので、まずは中期計画を策定次第ご報告をさせていただくという形になります。

議長 その段階から指定管理者の方で行うということになるんですね。

館長 はい。この計画は指定管理事業者の方で策定という形になります。

議長 それはその年の早い段階で出て、後半の方で評価の場面があるということですね。

委員 早い段階というのは、何時をいうんですかね。指定管理者になった段階で初年度は4月以降に出すしかないですよ。ところが、翌年度の方は先に図書館協議会にあげるのか、それとも4月になって教育委員会名で降りてきたものを報告するのか。それによって内容のチェックが違うと思うんですよ。

館長 時期につきましては、計画は年度前にできたものを図書館協議会の皆さまにお配りして、ご報告させていただくという形になると思います。評価につきましては、新しい年度に入ってからになりますので、次年度の部分については年度末に報告させていただいて、前年の評価をしていただくという形になると思います。

委員　　そうすると次に評価なんですけど、評価の項目とか評価の仕方については、どこがどういう形で決めるのか。これは前回も出てきましたよね。数字で出すのか文書で出すのかも含めてですけど、これは次年度の図書館協議会に先送りですか。

館長　　次の一番最初の中期計画につきましては、苫小牧市図書館基本計画を策定した後という形になってしまいますので、4月以降という形になってしまいます。実際の出来上がった中期計画につきましては、指定管理事業者に策定していただくこととなりますけれども、具体的な事業名が入ってまいります。それに対して何月頃にどういったことをやるとか、今年度中にこういったことをやっていくということが明らかになってきますので、そういった評価につきましては、次年度早々に評価をしていただくという形になると思います。

委員　　どこがどうやって決めて評価をしていくのかを、今ある程度目安をつけておこななくていいのか。それとも、新しい図書館協議会で決めれば良いのかも含めて気になります。

議長　　皆さんはいかがですか。私の感想としては、大元になる苫小牧市図書館基本計画（素案）の中に大元になる評価の部分が入ってこないとまずいのかなという印象があるんですが、大元になる成果指標が、基本目標Ⅰであれば蔵書冊数と貸出数の数値の部分しかないという辺りがどうなのかなと思います。他の項目もそうなんですが、最低でも具体的な施策を3つ示してあるのであれば、3つに対応する部分の大元になる成果指標は必要でしょうし、その評価の項目というのはそれに合わせて最低でも必要なのかなという気がします。そして、大元が数値の部分でしか出ていないと、結局はその数値があがったから良かったということで、それは今までもそのような話があったので、その辺りが危惧されるかなという意見です。

委員　　せっかく会長の方からそういう意見が出たんで、進行管理というより苫小牧市図書館基本計画（素案）に対応するような評価をもう少し具体的に書いていただくとありがたいと思います。つまり、基本計画の達成度とかに対してが1つ出てきますよね。それから、中期計画の達成度、評価も当然行わなければいけないし、それ以外に一般的なサービスに対する評価というものを、最低限具体的に書いていただかないと、言われたことを右から左に並べる評価しかできなくなってしまいます。もう1つはそういうことを具体的に書くことによって図書館協議会のメンバーがあらかじめ評価を前提にして図書館を見てくれるわけです。それでないと右から左にきたものに判子を押してお終いという図書館協議会になってしまったら、評価できなくなってしまいます。

館長　　貴重なご意見をいただきました。そして苫小牧市図書館基本計画（素案）に

対する達成度や評価が具体的な施策やサービス等々に対して、こういった評価をしていただくのかというところを、もう一度考えさせていただきたいなと思ってございます。

議長 その辺りよろしくお願ひします。最低でも施策に合わせた数と、基本的な評価の部分が必要かなと思ひますのでよろしくお願ひします。それでは先に進んでよろしいですか。1 ページ目の 2 番目の基本目標Ⅱの成果指標はこれもよろしいですか……。3 番は今の話と同じかと思ひますので、4 番はよろしいですか。

委員 4 番目は説明していただくと分かった気になるんですが、文書を読むと分からなくなってしまつて、確かあの時間問題になつたのは、高齢者を対象にの部分かどこに係るかだつた気がするんですが、読み聞かせに係るのか講座に係るのか。そこがこの文書から分からないんですが、先ほどの説明ですと高齢者に聞かせるための講座というように聞こえたんですが、これですと高齢者向けの読み聞かせ養成講座のようにも取れるわけです。

委員 この間は読み聞かせをする方の養成講座とお話されていたと思ひます。高齢者向けの読み聞かせの会じゃなくて、高齢者の方が読み聞かせをする人を育てる講座だつたと思ひます。

議長 どちらとも取れるんですよね。具体的には両方あるんですよね。両方がなければ成り立たない問題ですよね。

委員 読み聞かせは、本来高齢者とか子どもとかに分けずに誰にでも読み聞かせをできる人を養成する。その中に高齢になつて時間がある人で今までやっていない人もできるようにしたいというのが、こないだの話だつたと思ひます。

館長 すいません。文言をもう一度整理させてください。ニュアンス的にはこの間お話したとおり高齢者向けの講座を実施していただく高齢者を養成するという部分でござひます。

委員 高齢者って区切るから変なのかもしれません。

委員 読み聞かせ講座の実施で、その中では年齢は高齢の方も講座を受けてという形でしょうかね。

委員 逆に言えば 30 代、40 代の中年の方はこれだと出られないと考えちゃうんで、今まで比較的参加の少なかった高齢者にも呼びかけていくような表現の方がいいかもしれないですね。

委員 流れはそれでよろしいかと思うんですが、なぜこれが分かりにくいかの原因の1つがアイウのウ 高齢者サービスを充実しますのここに書かれているものだから、なおさら分かりにくいと思います。つまり、高齢者サービスというのは高齢者を対象にしたサービスだから、読み聞かせ講座もそれかもしれない。しかし、ここに書けば対象者。聞く側に対するサービスに取られるものだから、分かりにくいというところがあるんじゃないでしょうか。上の2つは直接高齢者に分かりやすいものです。高齢者の施設に巡回するとなれば、高齢者向けの読み聞かせの実施という形なら分かりやすいです。しかし、そうなると高齢者向け読み聞かせの養成講座はどこに書けば良いかという問題が出てくるとは思うんですが、分かりにくい原因の1つはそこにあるような気がします。

議長 前のページの3番で読み聞かせ活動への支援云々とは関係ないんですか。

委員 それでもいいですよ。高齢者を含む市民の読み聞かせ講座の回数を増やすという形にすると分かりやすいかもしれません。それとも、高齢者に特段のものを作るおつもりがあるのかないのか。さっきのお話だと高齢者に限定しなくてもいいような話でしたが……。

議長 読み聞かせの発想はそういう発想だということですよ。

委員 そうですね。別に年齢にこだわっているわけではないんで……。

委員 ちょっとはみ出ますが、こないだの新聞にケーブルテレビの方がやっているのがありましたから、ああいう中年の男性でもいいわけですよ。そうすると実際におじいさんとかの読み聞かせってのは、現実にあるんでしょうか。

委員 高齢の線引きは微妙ですが、大人のための読み聞かせを年配の方でされている方はいますし、子どもの本の会にも70代、80代の男性でご活躍されている方もいらっしゃいます。

委員 そうすると、こういう目標をあげるものが現状にあっているのかは、どうですか。

委員 やってる現場としてはぴったりとはすぐわない気はします。時間があるから急にやりたくなるとか、時間がないからできなくなるのではなくて、本に興味を持っている中で、時間を有効に使いながらやってみようという人を増やしていくという意味では、急に高齢になってから始める方よりは、本当に年齢に関係なく中年で始めた人が10年、20年とやっているうちに、たまたま高齢になっていくという方が今までは多いんですよ。ですから、そういう素地を広げていくという意味では読み聞かせ講座を増やして、読み聞かせ人口を増やして

いく方向にあるという方が、読み聞かせを普及するという意味では、適当な気はいたします。

議長 高齢者サービスの充実の3つ目は取ってしまって、前の読み聞かせ活動の方に加わるという発想もあっていいんじゃないかということですか。

委員 私としては折角ここにあるんだから、講座をとっていただければいいだけだと思います。例えば、前から提示しているのは移動図書館で施設に行けば、その時に読み聞かせを一部はそこで毎回やっていただく。もちろん図書の貸出、返却もやるとか。そうしておけば、一石二鳥でそのときを高齢者の方々が心待ちにして、聞いて感動した本があれば、それを借りたい。その時なれば、次回持ってきて欲しいとか、そういう形で相乗効果も生まれるんじゃないかと思います。これは今まで多分こういう形での実施はなかったと思うんです。

委員 書いてしまうとやらなければいけなくなってしまうんですけど、そういう体制は整っていないと思うんですよね。それは理想で本当にできればありがたいんですけども、やっぱり書いたら実績を作っていくかないといけないんですよ。

議長 もちろんそのための苫小牧市図書館基本計画（素案）ですからね。その辺はどうですか。

館長 確かに、この高齢者向けの読み聞かせの実施というのは、指定管理者も取り組んでいきたい項目の1つだと伺っていたものですから、そういった意味ではやっていけるのかなということで入れたんですけども、実際の運用になると色々問題もでてくるかもしれませんが、是非やってみたいというお話は伺っております。

議長 高齢者向け読み聞かせの実施という感じですかね。

委員 ということは、施設とかに行ってお実際に読むということですか。

館長 色々な老人施設もございますので、出向いて読み聞かせをしたり、お元気な方は来ていただいたりという場面もあるかもしれません。

委員 やってくださるのであれば、それはすごいですね。

議長 では、そういう前向きな感じで検討していただければと思います。

委員 さっきの前に移すというのはどうしましょう。11 ページ③の2項目がそれを

示していることにもなるのかな。これで間に合うんだったらこれでもいいのかなと思います。

議長 読み聞かせ活動を支援することなんですから、そういうことになりますよね。そうすると、読み聞かせ活動を行うための研修、講座もここに入ってもいいんですよね。

館長 ③がそういった項目になってございますので、そういった形で考えていただいて構わないと思います。

議長 そういったことでよろしいですか。そして、進む前に具体的施策が5点あるのに、成果指標がレファレンス受付件数1つだけというのは、ちょっとあまりだなと思いますので、その辺りもよろしくお願いします。では、2ページの5番目の辺り、基本目標Ⅱ、Ⅲの辺りはどうでしょうか。よろしいですか。6番はいいでしょうか。

委員 ちょっとはずれますけれども、いいでしょうか。14ページの③のレファレンス事例の整備というのは、どういうことを指しているのでしょうか。

館長 これは、中央図書館や他の図書館でも色々なレファレンス、相談を受ける場合がございます。それに対する事例ですね。こういった事例があって、こういうふうに答えたとか、対応したとか、調べたという事例集を作るといった内容になっています。

委員 それをスタッフが情報を共有して、より自分のレファレンスに活かすということですか。

館長 はい。

委員 具体的に苫小牧の中央図書館1つでやる必要はないんですよね。例えば、都立中央図書館とか、国会図書館の例を自由に使うようにアドバイスするだけでも、随分違いますよね。苫小牧の特殊性があるものは、苫小牧独自で作ればいい。しかし、日本中どこでも誰もが聞くようなことは、そういうような事例集を、リンクでこうすればこういうように見られますというようにやる方が、より充実できるのではと思います。ただそのためには、個人がこういうことに対して自由に使えるようなパソコン。情報データを検索して知ることができる専用の物を、ある程度用意していただくと有効に働くとは思いますが。今から事例を整備して構築していたら大変ですので、今だったら、大学図書館だったらどこでもそういう事例をサイトにあげておりますし、各企業だったら単純な質問はQ&Aのところで、見て手間を省くようにしていますよね。そういうような



形のものにしていかないと、負担が大きいだけで、あまり役に立つものはすぐにはできないと思いますので、その辺ノウハウは持ってらっしゃると思うんですが、苫小牧の図書館としても、上手に利用される方がいいと思います。専門カウンターの設置は、既にあるわけですよ。ただ、それを今ですと専門の人間が見る側しか用意されていませんよね。そうではなくて、一般の人が利用できて、分からなくなったら、専門の人間がアドバイスができるようにしておいた方が、これから先自宅に帰ってインターネットをやったりとかする場合にも、大いに違ってくると思うんです。つまり、必要な答えを答えとして与えてもらうのではなく、過程を教える自分で課題解決ができる方向性を持ったレファレンスをしていくということが、これから先には重要だろうと思います。

議長        それでは2ページの部分ではよろしいでしょうか。7番、8番、9番辺りは施策と成果指標の部分に関わる場所ですので、全体的に見直してもらえたらという感想を持っています。18ページの辺りですと説明はしてくれましたけれども、要は具体的な施策として3点あって、細かな部分が色々書かれているんだけど、成果指標が2つしかなくて、その1つが図書館ボランティア数だとすると、図書館ボランティアの数が増えれば、人と本、人と人の出会いを広げ、ゆとりとぬくもりが感じられる図書館になったということを示すのかということ、ちょっと足りないんじゃないかということですので、図書館ボランティア数が増えるということ成果指標として残すことは、全然いいんだろうと思うんですが、他の部分もバランスよく評価項目を整えてほしいということになろうかと思いますが、よろしくお願いします。そして、8番の苫小牧のおいしい水はどなたがおっしゃったかわからないんですが、よろしいですか。

委員        私が言い出したところなんですが、結局有料の飲物以前の問題として市民サービスとして無料でおいしいお水が飲めるというのは、行政としていい宣伝になるんじゃないかと思うんです。そうすると、まずは飲食スペースができたんなら、最初に苫小牧のおいしい水を提供していただいて自由に飲める。おいしいんだということを行政としてやっていただけたらと思うんですがね。北海道はまだ少ないんですが、中国や韓国、ヨーロッパもそうですけれども、夏場に行くと、大きなボトルの飲料水が無料で飲めるようにしてありますよね。価格的にも、そんなに高いものじゃないでし、公共施設にはあるわけです。だから、自動販売機を置く以前の問題として、当然それくらいやってもいいんじゃないかと、お金を使わせる前に宣伝をやればいいんじゃないかという意味ですので、これはもう少し前向きに考えていただけたらありがたいと思います。

議長        これに載せれと言うことではなくて、そういう前向きなアイデアもあるよということですよ。

委員        図書館らしく樽前山の伏流水はなぜおいしいかみたいなパネルでも作って、

お水の横に図書館らしい資料としてあれば、それだけでも苦小牧はそういうところなんだということを、一般市民の方も認識しやすくして宣伝にもなっているかもしれないですね。

委員　もう少し言えば、水を作っているところと話をすれば、それくらいは設置してくれるかもしれないですよ。了解はとっていませんし、あれですけども。ただ、図書館としてこういう形でバックアップできれば、お互いにいいんじゃないかなれば、いいと思うんですよ。大阪が大阪の水はおいしいということでペットボトルを作っていたのを一旦廃止になったんですよ。ところがまた復活するんですよ。その理由が大阪のお水はおいしいんだと、それだけでも地域の宣伝になるということがあるからですよ。だから、大きな宣伝をテレビで流しているようなことを大事にしないで欲しいと思います。

議長　そういうアイデアということではよろしいですか。この3枚については確認してきましたが、できるだけ意見を聞いて直していただければ、直していただいてこれが苦小牧市図書館基本計画（素案）ということになっていくわけですが、全体的な部分をとおして、何かありましたらお願いしたいと思います。

委員　15ページの郷土資料のところなんですけれども、成果指標には冊数、目標値だけになりますけれども、何がすごく重要だとかというところを(2)の具体的施策の中で③、④では作成し発信しますとか、公開しますと書いてあるんですけれども、これは市民にどういう形で何を使って公開したり、発信したりするのでしょうか。そこまではまだ、決まっていないのでしょうか。

館長　例えば、苦小牧だけにある色々なテーマがあると思うんですが、そういったものを図書館内に展示になるか分かりませんが、来館者や市民に向けてお知らせするというところが③のところになるかと思います。④は、前からお話ししていたとおり美術館的資料は美術博物館に一部移管するものがございますので、こういったものはきちんと、美術博物館の方で保存し公開してもらおうといった意味で書いたものでございます。

委員　③については、図書館に来れば誰でも分かるという感じのものになるんですね。

館長　はい。ホームページにもこういったものを掲載すると思います。

委員　保存、公開ということでいくと1階の奥に、小檜山博の万年筆の資料がありますね。あれはかなり長く出していると思うんですが、万年筆はああやって光に当てておくと、おそらく後10年たてば、ものすごく色が劣化すると思うんで

す。公開はいいんだけど、保存からいったらよろしくない。どうすればいいのかというと、企画をたてて公開で光にさらす期間を限定して、巡回させることをしないと、図書館の保存と公開が両立しなくなってしまうと思うんです。いつ来ても直筆の原稿が見られるというのはいいですよ。しかし、10年、20年のうちに薄くなっちゃったら、それは保存面からいったらいいことではないと思います。ですから、今回こういうことをお考えならばプランと保存と公開が両立できる方法をお考えいただきたい。はっきりいって、どんなものでも見せれば減ります。苫小牧の図書館が何年先までそういった資料を資料として保存する気があるのかが、見るたびにいいとは思いますが、やっぱりだいぶ薄くなってるし残念だと思っています。ですから、知ってもらう必要もあるし、図書館自体がどんな資料をどういう形で公開できるのか。そこらあたりから根本的な見直しをしていただけるとありがたいと思います。

議 長 他はよろしいでしょうか。それでは、今いくつか意見等があったと思うんですが、それを踏まえてこの苫小牧市図書館基本計画（素案）がこの先どうなっていくのか、日程的なところはどうなりますか。

館 長 この苫小牧市図書館基本計画（素案）に対応する評価や考え方は結構大きな部分になりますので、もう一度事務局案を作成させていただきたいなと思ってございます。それを元に図書館協議会の皆さんでご協議いただけたらと考えてございます。

議 長 はい。それでこの時期ですからタイムリミットといいますか、皆さんも年度末の慌しい状況に入っていますので……。

館 長 もし、事務局にお任せいただいて図書館協議会の皆さまに苫小牧市図書館基本計画（素案）を送付させていただいて、その後ご意見をいただくという方法もあるかと思うんですけれども……。

議 長 郵送してもらおうというのはいいですよ。その上で何か意見があれば図書館協議会を開かなくても出してもらって、よほど何かあれば臨時で開いて、それでいいとなればそのままいってくださいという感じの流れでよろしいでしょうか。集まった方がいいんじゃないかなれば、また判断をして開催ということになると思いますが、日程的にはかなり厳しいと思いますので……。

委 員 郵送でいいと思いますが、先ほど会長がおっしゃっていたように具体的施策があればそれに対して数字ではできないけれども、こういう目標の中で実際にこういうことがあったとか、そういう中で評価できる部分があると、全体がもっと早く見えてくると思うんですが……。

議 長 例えば、基本目標Ⅰであれば具体的施策が3点あるのであれば、少なくとも①市民ニーズに応えることができる幅広い蔵書を充実しますとあるのであれば、それをひっくり返した形で幅広い蔵書を充実させることができたかというようなことが、全部について評価しますという前提がどこかに書かれていればいいと思うんですが、それがなしに成果指標が2点だけ出てくると、これでしか見ないのかと思ってしまいますよ。その辺りがちょっと心配だと思います。指標として数値で見る部分と、全ての項目についてひっくり返した形でできたかどうかということの評価する前提を作ってもらいたいということで、よろしくお願ひしたいと思います。

委 員 ちよつとずれてますけれども、さっきのレファレンスのところのレファラルサービス。これはとってもよろしいんですが、10数年前に教育委員会の社会教育かなんかでこれをやろうとして数年で頓挫した記憶があるんですが、ご存知ありませんか。実際にこれを最初から構築なさるおつもりなのか。ものすごく大変だと思うんです。おそらく10数年前の社会教育が行ったものは一時ホームページで出てきたんですよ。こういうことを知りたいというときに、あなたを紹介するような形でよろしいでしょうかという本人の承諾を取った上で、しかしその後の更新はありませんので、もうおそらくそんなサイトはなくなったんだろうと思うんですが、それをもう一度やろうということですよ。例えば、源氏物語について知りたい。苫小牧市にはそれについて答えてくれるサークルがあるか。答えてくれる人物がいるかということを図書館が窓口になってということですよ。そうすると充実以前にそんなのがなかったんですから、これも書くことは良いけど、中々大変だろうなということと過去に頓挫したことがあったと思いますということだけ、申し添えておきます。

議 長 これもやる見通しはあるんですか。

館 長 これも、指定管理事業者の方でレファラルサービスの充実を図っていきたいというご提案がございましたので、すぐというのは難しいかもしれませんが、5年間の苫小牧市図書館基本計画策定中に何らかの形でやっていただけるものと思っております。

議 長 そういうことでよろしくお願ひいたします。それでは、流れについては先ほど館長からお話があったような形で、この先進めさせていただくということで、今日準備をされていた報告と議事についてはこれで終了ということになりますので、ありがとうございました。それでは司会の方をお返しいたします。

副館長 皆さまお忙しい中、ありがとうございました。本日の会議につきましては、これで終了させていただきます。どうもありがとうございました。

閉 会 14 : 37

<出席者>

◎委員

渡部 哲 会長

谷口 佳子 副会長

岡田 房子 委員

鈴木 一恵 委員

中村 峰子 委員

林 晃平 委員

依田 俊秀 委員

◎教育委員会

瀬能 仁 中央図書館館長

今井 章子 同 副館長

藤原 誠 同 管理係長

<欠席者>

◎委員

齋藤 健二 委員

長谷川 博一 委員

深澤 治稔 委員